

平成27年度 第2回北秋田市総合教育会議 会議録

1. 開催期日 平成27年11月26日(木)
2. 開催場所 北秋田市役所 本庁舎 3階 大会議室
3. 開会及び閉会 開会：午後1時00分 閉会：午後2時45分
4. 出席者 北秋田市長 津谷 永光
＜北秋田市教育委員会＞
委員長 永井 高道
委員 佐藤 正俊
委員 吉田 美樹
委員 小林 真
委員(教育長) 三澤 仁
5. 出席事務局員 ＜教育委員会事務局＞
教育次長 長崎 幸雄
総務課長 松橋 久司
学校教育課長 遠藤 元博
生涯学習課長 佐藤 要
スポーツ振興課長 福田 公人
総務課総務係 主査 佐藤 礼介(書記)
6. 案件
 - (1) 平成27年度主要教育施策の実施状況(上半期)と平成28年度における教育に関する重点施策について
 - (2) 意見交換

7. 会議録

長崎教育次長	ただいまから、第2回北秋田市総合教育会議を開催いたします。 初めに、津谷市長より、ご挨拶をお願いします。
津谷市長	<p>それでは、一言ご挨拶を申し上げます。</p> <p>教育委員の皆様には、お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>今年5月に開催いたしました第1回目の総合教育会議におきましては、当市の教育大綱を決定いただきましたが、現在、教育委員会事務局では、この大綱に基づき、各種事業を進めているところでございます。</p> <p>ご承知のとおり、総合教育会議は新教育委員会制度のもとに今年度より設置されておりまして、教育委員の皆様と市長が直接意見を交わし、子どもから大人までの教育を担っていくための教育施策を決定する、非常に重要、かつ開かれた会議であると受け止めているところでございます。</p> <p>当市におきましては、これまでも市当局と教育委員会間において、常に情報を共有して、オープンな形でやりとりをさせていただいておりますので、新制度によりまして、施策の方向性が大きく変わるということは無いとは考えておりますが、様々な教育課題の解決に向けた迅速な対応と、市教育行政の施策推進のために、教育委員の皆様からの忌憚のない貴重なご意見を直接頂ければと思っております。</p> <p>本日の会議では、来年度の重点施策が議題の中心となりますが、様々な意見を出し合い、活発な議論の場としていただけるようお願い申し上げます。冒頭にあたりましての、私からのご挨拶とさせていただきます。よろしくをお願いします。</p>
長崎教育次長	ありがとうございます。 続きまして、永井教育委員長より、ご挨拶をお願いします。
永井教育委員長	皆様、こんにちは。 ただ今、津谷市長がお話されたように、今年度から始まりました新制度に基づいて、「総合教育会議」というものが行われることになりました。そのようなことから考えますと、この平成27年度は、

	<p>非常に重要な、教育行政の分岐点であると考えられると思います。</p> <p>当教育委員会は、旧来の体制のまま継続されているわけですが、他市町村を見ると、新制度に移行しているところもあります。そういったところから、しっかりと情報をキャッチして、私どもの活動に反映させていかなければならないと考えております。</p> <p>来年度は、「伊勢堂岱遺跡ガイダンス施設」と「北秋田市民ふれあいプラザ」の完成と運営という大きな事業が控えております。しかし、そこに至るまでにも、いろいろな課題が出てくるのではないかと思います。</p> <p>最近の教育用語は横文字が多く、付いて行くのが大変です。そのような点から、教育委員は、従来のパターンを踏襲する部分と、常に研修を積んでいかなければならない部分があると思います。そして、それらを実践し、評価をし、計画をする、というような活動を、絶え間なく続けていかななくてはならないのだと考えております。</p> <p>今日の会議ではいろいろと意見を出し合って、北秋田市の教育において、様々な形でプラスの作用が出されることを期待したいと思います。今日はどうぞよろしく願いいたします。</p>
長崎教育次長	<p>ありがとうございます。</p> <p>続きまして、早速ではございますが、案件に入らせていただきます。</p> <p>今年5月に開催しました、第1回北秋田市総合教育会議の際に策定しました「北秋田市総合教育会議運営要綱」の第3条第3項によりまして、議長は市長が行うこととなりますので、津谷市長に案件の進行をお願いしたいと思います。それでは、津谷市長、よろしく申し上げます。</p>
津谷市長	<p>それでは、要綱に基づいて、議長を務めさせていただきます。皆さん、ご協力をお願いいたします。</p> <p>案件（1）北秋田市教育大綱に基づく平成27年度主要施策の実施状況（上半期）と平成28年度における教育に関する重点施策について。事務局から説明をお願いします。</p>
松橋総務課長	<p><案件（1）の概要説明。資料は「学校教育編」「生涯学習編」「スポーツ振興編」の3編から構成されており、それぞれ質疑を行う旨を説明></p>

遠藤学校教育課 長	<p>＜資料：学校教育編の説明＞</p>
津谷市長	<p>ただいま説明のありました「学校教育編」について、何かご意見やご質問等を頂きたいと思います。教育委員の皆さん、何かございませんか。</p>
三澤教育長	<p>はい。私からただ今の説明に補足する形でお話させていただきたいと思います。</p> <p>北秋田市内には、小学校11校、中学校5校、計16校ありますが、小中学校に通う子ども達の状況です。</p> <p>学力については、先日行われた全国学力学習状況調査でも、小中学校共に良好な状況であるということがしっかりと表れております。この調査では、学力だけでなく、内面的な調査も含まれており、「あなたは地域の行事に参加していますか」という質問事項に対し、北秋田市では55.8%が参加しているという回答でした。秋田県平均では参加が52.3%、全国平均では参加が36.9%でした。この結果から見ても、当市の子ども達は、様々な形で地域貢献していると言えると思います。また、別の質問事項の小中学生の回答を見ると、地域の一員として自分達ができることは何か、ということを考えている子どもが多いということが窺えます。</p> <p>私は今年の4月に、各学校の先生に3つのお願いをしました。1つは、子ども達がしっかりと挨拶ができるように。2つ目は、名前を呼ばれたら、大きな声で返事ができるように。3つ目は、靴をしっかりと揃えることができるように。これらを子ども達に身に付けさせてくださいというお願いをしました。</p> <p>学校訪問等で各学校に行った際に玄関の靴箱を見ると、全員、きちんと靴が揃っています。授業風景を見ても、背筋を伸ばし、集中して先生の話聞いております。</p> <p>これらの子ども達の姿から、心の成長を感じとることができます。私も教員として長く勤めましたが、現在の子どもの状況はとても良い状況にあると感じております。</p> <p>私からは以上です。</p>
津谷市長	<p>ありがとうございます。</p>

<p>佐藤委員</p>	<p>他に何かございませんか。</p> <p>はい。現在、教育委員による各学校への学校訪問を実施しております。学校で子ども達の様子を見て感じることは、非常に良く育っているな、ということです。</p> <p>その背景にあるのは、北秋田市として、教育に対してしっかりと予算を配当していただいていることが一因としてあるのではないかと思います。他の市町村と比較しても誇るができると思います。そのおかげで、素晴らしい学校環境が整備されているのだと思います。</p> <p>先ほどの資料説明の中で、来年度は「学校生活サポート員の増員」という話もありました。この「学校生活サポート員」の役割というのは非常に重要ですので、これにつきましてはぜひ配慮いただきたいと思います。</p> <p>それから、英語教育の充実のためにALTの増員、さらには北秋田市単独で国際交流員を配置したい、ということでした。英語教育の充実というのは、これからの時代、必要不可欠ですので、ぜひとも実施してほしいと思います。</p> <p>それから先ほどの資料説明の中で「教育センター事業」の重要性についてもお話されておりましたが、やはり子どもの力を育むには、学校の先生達が互いに研修し合う機会が必要だと思います。これについては教育センターがしっかりと計画し、小学校・中学校の教員を対象とした研修の場を設けていただきたいです。</p> <p>また、各学校で行っている校内研修の際にも、教育センターの職員が出向いて、しっかりと指導してくださっているということも、良い体制であると感じております。</p> <p>私からは以上です。</p>
<p>津谷市長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>私からも「学校生活サポート員」について。</p> <p>先ほどの説明の中で、現在市内の小中学校においてサポートが必要な児童生徒が100人ほどいるというお話でした。サポート員の数が現在の26人では足りないため増員したいということでした。</p> <p>10年くらい前から、この学校生活サポートという制度が始まったと思いますが、その頃は各学校においてサポートが必要な子どもが1人くらいであったと記憶しています。それが、現在は市内全部</p>

<p>遠藤学校教育課長</p>	<p>で100人ほどということで、とても増えているなど感じました。</p> <p>そこで、この学校生活サポート員に関して、現状をもう少し詳しく教えてください。</p> <p>それから、国際交流員を配置したいということでしたが。</p> <p>これがもし実現したら、教育委員会だけに留まらず、北秋田市のホームページを英語で作成してもらうなど、外国人に向けた北秋田市、それから北秋田市の教育の魅力をPRしていけたらいいですね。</p> <p>それでは、学校生活サポート員の現状について説明させていただきます。</p> <p>自治体によっては、この学校生活サポート員を特別支援学級に配置するというケースもありますが、北秋田市教育委員会としては、通常学級に在籍している子どもに対しての配置を基本としております。</p> <p>しかし、いろいろなケースがあります。特別支援学級には特別支援学級の担任教員がおりますが、その子どもによっては、サポート支援が必要な場合もありますし、必要のない場合もあります。</p> <p>最終的には学校と教育委員会とで協議を行い、サポート員の配置の方法を決めております。</p> <p>学校生活サポート員の役割というのは、その子どもによって異なります。大きく分けると3つに分けられます。</p> <p>1つ目は、授業の中で、担任の先生が話す内容に対して理解がはかどらない子どものケース。こういった子どもに対しては、担任の先生が話した内容を、もう一度丁寧に教えてあげるといった形です。</p> <p>2つ目は、情緒が安定しない子どものケース。例えば、感情の起伏が激しい、他の子どもにちょっかいを出す、授業中に静かに机に座っていることができない、というような子どもです。このような子どもの場合には、授業の進行に支障のないようにサポートする必要があります。</p> <p>3つ目は、特別支援学級に入級することが望ましいと医師や専門家より診断された子どものケース。このように診断された場合でも、保護者の同意を得られなければ特別支援学級に入級させることはできません。保護者としては「通常学級に通わせたい」という方もおります。そういった場合のサポート員の配置というケースです。</p>
-----------------	--

	<p>生活サポート員の数、それから対象児童・生徒の数だけを見ると、以前に比べとても増えているという印象を受けます。そこで、以前、秋田県の特別支援の担当者から伺った話では「こういったサポートが必要となる子どもが生まれる割合が高くなっているわけではない」ということでした。その方の考える要因としては、『親のしつけ』や『核家族の増加』などにより、我慢ができない子ども、自分の感情を制御できない子どもが増えている、ということが挙げられる」とのことでした。他から聞いた話では、例えば病院等の「静かにしなければならない場所」では、親が子どもに注意するよりも、スマホを子どもに持たせて静かにさせているというケースが非常に多いそうです。</p> <p>このような現代の子育ての状況から、集団行動の場で我慢できない、自分をコントロールできない子どもが増えており、学校生活サポート員による支援が必要な子どもが増えてきているのだと考えております。</p>
津谷市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>実は、秋田県の市長会においても「サポートが必要な子どもが増えている」という話題が挙がったことがあります。各自治体の話を聞くと、サポート員を増やすなどによる対応等、何らかの手立てが必要ですね、という話をしておりました。</p> <p>この学校生活サポートには、しっかりと取り組んでいただきたいと考えております。</p> <p>他に、ご意見等のある方はおりませんか。</p>
永井委員長	<p>外国人を非常勤職員雇用し「国際交流員」として配置したいとのことでしたが、業務等はどのようなことを考えておりますか。</p>
遠藤学校教育課長	<p>はい。来年度の構想では北秋田市のALTは2名増員となり、全部で7名体制となる予定です。まず、このALTに対する指導をお願いする予定です。特に日本に来たばかりのALTの場合、わからないこともたくさんあり、いろいろな場面で戸惑うことがあると思いますので、こういった点をサポートしてもらいたいと思います。</p> <p>それから学校での英語指導においても、相談にのってあげること</p>

	<p>もできると思います。</p> <p>さらに、教育委員会という枠に留まる必要は無いと私は考えております。例えば、市長部局で行っている国際交流に関する事業でも活用できると思います。外国人向けに英語でのホームページ作成ですとか、観光に来られた外国人の案内ですとか。活用方法についてはいろいろと考えることができると思います。</p>
津谷市長	<p>はい。他にございませんか。</p> <p>それでは、ただいま協議いただきました「学校教育編」につきましては、現在の状況と、来年度重点的に取り組むべき内容を確認させていただきました。それでは次に「生涯学習編」に移ります。事務局より説明をお願いします。</p>
佐藤生涯学習課長	<p><資料：生涯学習編の説明></p>
津谷市長	<p>ただいま説明のありました「生涯学習編」について、何かご意見やご質問等を頂きたいと思います。教育委員の皆さん、何かございませんか。</p>
永井委員長	<p>はい。国際教養大学では、秋田県における文化観光の振興を目的として、世界に発信する研究プロジェクトを行っていて、各市町村の文化遺産の状況などを調査し、それをサポートしているようです。これについて、北秋田市の縄文遺跡についても国際教養大学と連携しておりますか。</p>
佐藤生涯学習課長	<p>国際教養大学の根岸教授が、直接北秋田市に来られました。生涯学習課文化係に対し調査協力のお願いがあり、こちらとしてはその調査に協力をしました。</p>
佐藤委員	<p>学校支援地域本部事業について。</p> <p>これは学校教育編とも関連してくるのかもしれませんが、ここ数年、北秋田市の小学校がいくつか統廃合が行われました。そこで心配されるのが、学校と地域の繋がりが次第に薄れていってしまうのでないかということです。</p> <p>統合した学校のある周辺地域については問題ないと思うのです</p>

永井委員長	<p>が、これまで学校にたくさん協力してくれていた地域であったのに、統合によって学校が無くなってしまった。このような地域から、引き続き協力を得られるようにしていくためにはどのような努力をしたら良いか。</p> <p>例えば、伝統芸能などの伝承活動です。小さな学校であった時には、伝承活動が上手になされていたのに、統合してその地域に学校が無くなってしまった。学校が統合により大きくなってしまったことで、伝承活動から足が遠のいてしまう、ということが心配です。</p> <p>はい。ただいま佐藤委員がお話されたことについては、これから統合が予定されている鷹巣西小学校についても同じことが想定されます。</p> <p>これまでは、老人クラブや婦人会、地域の見守り隊など、地域の人達と学校に通う子ども達が、必ず接する機会がありました。これが統合により、来年度から鷹巣小学校へ通うことになった場合、子ども達と地域の人達との関わりが稀薄になってしまうことが予想されます。</p> <p>そうならないためには、これからどういう形で子ども達と地域の人達との繋がりを継続していくことが望ましいか。この点については教育委員会としても十分に配慮していかなければならないことだと思います。</p> <p>私達教育委員もいろいろな場面でそういったことを提言していきたいとは考えておりますが、どこがそういったことを担っていくのかというのが今後の課題となっていくと思います。</p>
津谷市長	<p>ただいまの発言について、佐藤生涯学習課長、お願いします。</p>
佐藤生涯学習課長	<p>はい。お話いただいたとおり、これからの課題だと思います。</p> <p>先日、今年度から統合となった合川小学校において「防災キャンプ」を行いました。小学校だけではなく周辺にある、あいかわ保育園や合川中学校の皆さんにも協力を頂いたほか、自治会や婦人会にも協力を頂きました。</p> <p>また、このようなイベントを実施する際には、どうしても地域の方々にも協力をお願いすることになります。担当者的話では、この地域の方々に協力をお願いする点について、大変苦勞したということでした。</p>

津谷市長	<p>これまで何回か行った「防災キャンプ」では、学校が地域の中にある、という状況でした。これに対し、新しくなった合川小学校の場合は、学校からは少し離れた周辺地域の自治会に依頼しなければなりませんでした。</p> <p>今後このようなイベントを行う際には、各地区の自治会長会や婦人会などに相談をしながら進めていかなければならないと考えております。</p> <p>はい。この統合による学校と地域の方々との繋がりについては、これまでもいろいろと地域の方々から意見を頂いております。各地域には学校の他に公民館があり、この公民館を中心に子ども達に声をかけ、見守りを行っておられます。</p> <p>また、統合で学校が無くなってしまっても、公民館を利用して、地域の方々と地域の子子ども達が交流する機会があってほしい、という話もありました。</p> <p>学校によっては、公民館が行うお祭りのようなイベントの際に、児童が伝統芸能を発表する、というような取組を行っているところもあるようです。</p> <p>私の考えでは、やはりこういった機会を捉えて、地域の方々と、そこに住む地域の子子ども達が触れ合うということが必要だと思えます。</p> <p>他に、何かございませんか。</p> <p>それでは、ただいま協議いただきました「生涯学習編」につきましては、現在の状況と、来年度重点的に取り組むべき内容を確認させていただきました。それでは最後に「スポーツ振興編」に移ります。事務局より説明をお願いします。</p>
福田スポーツ振興課長	<p><資料：スポーツ振興編の説明></p>
津谷市長	<p>はい。ただいまの説明について、ご意見やご質問などある方はお願いします。</p>
佐藤委員	<p>100キロチャレンジマラソン大会補助事業についてですが、私個人としては、今後もぜひ、継続していただきたいと考えております。</p>

<p>福田スポーツ振興課長</p>	<p>す。</p> <p>地域の方々が沿道に出て、ランナーの皆さんを応援する光景は、実に良いものだと感じております。</p> <p>要望としては、ランナーの皆さんが走る「歩道」の整備や草刈りをしっかりと行ってほしいということです。できれば、これは秋田県にも伝えていただきたいです。</p> <p>それから、クリーンアップについて。例年、北秋田市として全地区一斉に実施しているクリーンアップは、100キロマラソンが終わった後に行われております。これについて私は、100キロマラソンが行われる前にクリーンアップを実施したら良いのではないかと考えております。大会当日は、大会参加者やそのご家族等、北秋田市外からたくさんのお客様が来られます。その方々を、市民みんなが参加するクリーンアップによって清掃を行い、大会当日にお客様として迎えるという気持ちが大事なのではないかなと思います。</p> <p>まず、歩道の整備についてです。大会前には、スポーツ振興課としても、コースの状況を一通り確認しております。それから、大会前に100キロマラソンの大会事務局のほうから北秋田市の建設課に対して道路や歩道の整備に関する要望が毎年行われており、建設課においても対応しております。</p> <p>それから、100キロマラソン大会の各地区の実行委員会においても、コースの整備や草刈り、それからゴミ拾いなども実施いただいているようです。</p> <p>次にクリーンアップの実施時期についてです。</p> <p>今回、私がスポーツ振興課に配属となり100キロマラソン大会を終えて感じたことは、大会が終了してからの後片づけや清掃が非常に大変であるということです。大会が終わってしまってから「ボランティアで清掃をお願いします」と呼びかけるのは難しいと思いますので、北秋田市のクリーンアップが、大会が行われた後に実施されているという状況は良いことではないかと思えます。</p> <p>これに関しましては、大会前にクリーンアップを行うのと、大会後にクリーンアップを行うのとでは、どちらが良いかということは一概には言うことができませんが、大会前は大会関係者やスタッフの方々である程度準備ができていて、という状況。そして、大会が終わった後にクリーンアップで大会コース沿道の清掃が行なえるというのは、ある意味で1つの成功例と言えるのかもしれないです。</p>
-------------------	--

津谷市長	<p>他になにかありませんか。</p>
小林委員	<p>100キロマラソンに関連して質問です。 実際に大会に参加されて走った皆さんにアンケート等は行っていますか。もし行っているとしたら、コースの状況に関する要望や苦情等がありますか。</p>
福田スポーツ振興課長	<p>はい。大会参加者へのアンケートは、100キロマラソンの大会事務局において実施しております。</p> <p>アンケートとは別に、県外に住む私の知人が大会に参加した際に言われたことが、「この100キロマラソン大会は、他の大会と比べても突出して良い。各セクションの『おもてなし』や、前夜祭、後夜祭など、とても充実している。ただ1つ足りない要素が、宿泊施設が不足していることです。」という話でした。この話に対しては、「その問題に関しては、我々大会関係者だけでなく、北秋田市全体として考えなければならないことですね。」という返答をしました。</p> <p>100キロマラソン大会事務局が集計したアンケートの内容を確認させていただいたところ、「100キロの部」「50キロの部」共に、参加者の感想としては全体的に良い印象の回答内容でした。</p> <p>そのアンケートに記載されていた要望の中に、「北秋田市方面から角館へ移動する際の内陸線の本数が少ない」というものや、「北秋田市方面から、宿泊しないで参加できるようにしてほしい。」というものがありました。これを受けまして、秋田内陸縦貫鉄道に対し、「大会当日の夜中の2時頃に鷹巣駅を出発する『内陸線』を運行してもらうことはできないか。」という内容の打診を行いました。</p> <p>この打診に対する秋田内陸縦貫鉄道の返答は「一定の利用人数が確保できるのであれば、運行可能です。」という内容でした。</p> <p>これを受けて、大会の実行委員会側から参加者に対し「夜中に内陸線を運行した場合、利用したいですか。」という内容のアンケートを実施する予定です。</p> <p>以上です。</p>
津谷市長	<p>私もアンケートの集計内容を見ましたが、「コース沿道のトイレをもっと増やしてほしい」という要望もありましたね。</p>

永井委員長	<p>質問です。例えば「大会参加費」を増額した場合、参加者の人数は大幅に減る可能性はありますか。</p>
福田スポーツ振興課長	<p>大会参加費が増額となった場合、参加者数が減るという可能性はあると思います。</p> <p>現在の大会参加費というのは、私の感覚からするとかなり高額なのですが、大会参加者からすると妥当な金額であるようです。</p> <p>ただし、大会事務局側の内情として、現在のスタッフの状況では処理できる参加者の人数が、現在設定している「1700人」が限界だそうです。</p> <p>今年の大会は1693人が申込を行い、大会当日に実際に走った人数が1525人です。</p> <p>以上です。</p>
津谷市長	<p>他にございませんか。</p> <p>ただいま協議いただきました「スポーツ振興編」につきましても確認させていただきました。</p> <p>それでは、(1)の案件につきましては、それぞれ協議いただきました内容を基に、今年度の残り3月まで、そして来年度、重点的に取り組んでいくということを確認させていただきました。</p> <p>続いて、案件(2)の意見交換に入ります。特にテーマを限定せずに、北秋田市の教育について、日頃感じていることや課題等、何でも結構ですのでお願いします。</p>
三澤教育長	<p>はい。日頃、考えていることですが、これまでの「学校」というのは、地域から隔離されている、社会から隔離されているような状況であったと思います。しかし、これからの「学校」というのは、地域に包まれている存在にならなければならないと考えております。</p> <p>例えば、高齢者は、介護施設等に入る前に「学校」に行つてはどうかと考えております。これは、人生において「仕事」を終えた人間が、地域の学校において学び直しを行う。或いは、人生の先輩として、地域子ども達に知恵を授ける。このように、学校には常に地域子ども達とお年寄りが存在することになります。これにより、地域が活性化し、「学校」の新たな一面が見出されるのではないかと考</p>

津谷市長	<p>えております。</p> <p>都会だと、「不審者」の問題等もあり、保護者以外の大人が学校に多数出入りするという状況は、なかなか難しいと思いますが、この地域の場合であれば、それも可能であるかと思えます。</p> <p>先日、防災の関係で鷹巣東小学校に行ってきました。その時は、学校周辺の栄地区の方々も多数参加されており、地域の住民と学校の児童が防災について話し合いを行いました。やはり、地域に住む方々と、その地域に住む子ども達との交流の場というのは必要だな、と、話し合う様子を見ながら感じました。</p>
永井委員長	<p>国は、「コミュニティスクール」を推進していきたいと考えているようですが、最近ではこの制度のマイナス面が強調されて、あまり浸透されていないようです。特に、この制度では学校教員の人事権にまで及んでしまっているため、これを制御する動きが出てきているようです。</p> <p>しかし、それに対し、先ほどの三澤教育長の発想というのは、地域の「コミュニティ」の部分と、学校への「サポート」という部分があり、「コミュニティスクール」とは違った新しいものであると思いましたので、今後検討してみる価値はあるのではないかと感じました。</p> <p>しかしながら、不審者等の観点からすると、不特定多数の人が学校に出入りするというのは、少し難しい気がします。</p>
三澤教育長	<p>不審者という観点からすると難しいのはわかりますが、子ども達に、お爺さん、お婆さんと接してほしいという気持ちから考えついたアイデアです。現代は、お爺さん、お婆さんと暮らしていない家庭が多いので。お年寄りを大事にする、思いやりのある人間に育てほしい。子ども達にはそういった気持ちを大事にしてほしいです。</p>
津谷市長	<p>他にございませんか。</p>
吉田委員	<p>はい。私から、まず1点、伝統芸能の継承について。</p> <p>私の住む地域でも伝統芸能があり、伝承活動にも取り組んでおります。しかしこれがいつからか、小学校6年生までは活動を頑張る。小学校を卒業すると、伝統芸能からも卒業、というおかしなサイク</p>

	<p>ルができてしまっており。さらに、それに関わる親についても同じ状況になってしまっており。子どもが小学生のうち、頑張って活動に参加する。子どもが小学校を卒業すると、親もそれに伴って活動に参加しなくなってしまう、という状態です。結局、中学生以上になってから、また活動に参加するという子はほとんどいないため、継承者がどんどん減少していくという状況になってしまっているというのが、私の住む地域の状況です。</p> <p>しかし、他の地域の方々の話を聞きますと、中学生や高校生に声をかけて、少しですがお小遣いをあげて活動のお手伝いをしてもらっている、というところもありました。</p> <p>地域によっては、継承者不足に悩んでいるところもあれば、きちんと活動を維持し、継承者を確保できている地域もあるようです。</p> <p>そこで私からの提案ですが、伝統芸能に取り組んでいる各地域による交流の場を設けてはどうか、ということです。どうしても自分の地域のことだけを考え、頭を悩ませてしまっていると思いますので、地域同士でお互いの取り組みを話し合い、今後の伝承活動に繋げていくヒントを得ることができると思います。</p> <p>2点目ですが、先ほど、「学校生活サポートが必要な子どもが増えている」という話がありました。その要因の1つに「親から子どもへのしつけができていない」という話もありました。しかし、現代は、「子どもを育てる」前に、「親を育てないといけない」時代になってきていると思います。ある家庭の話を聞くと、親が育児を全くせず、子どもの祖父母が親の代わりに育児を行っているという話を聞きました。</p> <p>10年ほど前の子育て環境と、現在の子育て環境とでは、やっぱり少し違うようです。しかし、子どもは親の背中を見て育つものだと、私は考えておりますので、現在子育て中の親御さんには、親であるという自覚をしっかりと持って子どもに接してほしいと思います。</p> <p>私からは以上です。</p>
津谷市長	ありがとうございます。小林委員から何かございませんか。
小林委員	はい。「子どものしつけ」に関してですが、学校保健委員会において毎回出る意見として、「子どものしつけが出来ない親が悪い」では

	<p>なく、「子どものしつけが出来ない親を育てた親が悪い」というものがあります。</p> <p>それから、先ほど「学校生活サポート」が必要な子どもが100名ほどいるという話を聞いて驚きました。と言うのも、知的障害や発達障害を持って生まれてくる子どもというのは医学的に割合が示されております。その割合から考えると、この人口の北秋田市において、サポートが必要な子どもが100名以上いるというのは、とても多い数字だと思います。これはやはり、生まれた時にそうであったという先天的なものではなく、後天的な要因からだろうと思われました。これについては、学校やPTA等でも深刻に考えなければならぬ状況でないかなと思います。</p> <p>以上です。</p>
津谷市長	<p>ありがとうございます。他にございますか。</p>
佐藤委員	<p>はい。「子どものしつけ」に関連して、ゲームやスマホについて。ある子どもの保護者から聞いた話では、これらの取扱について怖さを感じている、ということでした。子どもからこれらを取り上げた場合、この子はどういう反応を示すのだろうか。暴力を振るうのでないか。家出してしまうのでないか、と。場合によっては、家庭全体がおかしくなってしまうのでないか、という不安を感じているそうです。そのような状況から、子どもから強制的に取り上げることも出来ないし、止めることも出来ない、という不安を口にしていました。</p>
三澤教育長	<p>結局、親が自分の子どもに負けてしまっているのですね。</p>
佐藤委員	<p>そうですね。</p> <p>それから、ある不登校の子どもから聞いた話では、「ゲームの中のネットワークには友達がいるが、自分の周りに友達はいない」と。しかし、そのネットワークの友達というのは顔もわからないそうです。さらにその子の話では、「ゲームをやり続けていないと、ネットワークの友達からも仲間外れにされてしまう。そうすると、自分には友達が誰もいなくなってしまうため、ゲームをやめるわけにいかない」と話していました。</p>

<p>津谷市長</p>	<p>幸い、その子は現在、その状況から抜け出すことができたそうです。つい先日、楽しく高校に通っているという近況報告を聞き、安心しました。</p> <p>ありがとうございます。これらのメディアの取扱については、学校教育においても指導していく必要がある時代になりました。</p> <p>学校生活サポートの話聞いていても、北秋田市ではやはり、サポートが必要な子どもに対しては、可能な限りサポート員を配置し、常に子ども達に声掛けを行い、目と目を合わせて会話をすることが大事でないかなと思いました。</p> <p>それでは、この辺で意見交換を終了させていただきたいと思えます。無事に進行役を終えることが出来ました。皆さん、どうもありがとうございました。</p>
<p>長崎教育次長</p>	<p>続きまして、次第の「その他」に入ります。何かございますでしょうか。</p> <p>特に無いようですので、これで会議を閉じたいと思えます。</p> <p>以上をもちまして、第2回北秋田市総合教育会議を閉会いたします。皆様、お疲れ様でした。本日は誠にありがとうございました。</p>